

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第222号

# 龍源寺報

平成31年 正月号

派樹	樹	心原	妙松	宗・	濟住	信	樹
寺	信	原	松	心	佛母	覺	行
樹	覺	原	松	原	寺住	妙	正福
心	行	原	松	原	職	松	寺住
原		原	松	原	職	松	職
原		原	松	原	正福	松	正福
					TEL	3451-1853	
					FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23(郵便番号 108-0073)

Email: info@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

## 新年におもう

龍源寺住職 松原信樹

今年の一月二十五日に兄の五十回忌を迎える。兄については、父母も祖父母も多くは語らなかつたし、私自身も名前を知つていだけで深いことはよく分からぬ。私がそれを知つたのは、先日、弟の正福寺住職から届いた祖父の法話のテープ起こしの原稿からだつた。

「悲しい話しですから急いで申しますが、おも

ちやの箱のような棺桶に赤ん坊を入れまして、後でわかつたことあります。若い夫婦が両親の写真と、私の寺の観音様の御影を入れまして、手紙を書いて入れたのだそうです。『観音様、右も左もわかりませんから、どうぞ手を引いてやってください。お父さんとお母さんの写真を入れてあげるから怖がらずに行くんだよ』と。……『おじいちゃんわかつておくれよ、花びらは散つても散らないんだよ、それをおじいちゃんに知つてもらうために僕は一生懸命に生きて短い数時間の命を去つていくんだよ、わかつておくれよ』と。わからなければならんと思いました。どういうことでしようね。花びらは散つても散らないんです。散つていく花びら

の中に散らない本当の仏のいのちをわかつてくれよということでありましょうか」と。  
「花びらが散つても花は散らない。」孫の死でこの言葉がストーンと胸に落ちたと泰道和尚は法話の中で語つた。泰道和尚や哲明和尚のみた花は昭和四十四年一月の花だった。その花を見るたびに彼らは何を思ったのだろうか。幼い子供の死に直面し、それを受け入れ認め許しながら、布教師という表現者として、自分の悲しみや苦しみをもつて、人々に仏法を説いた。

家族を亡くしたり、親愛なる人を亡くしたりして、悲しい思いをした人もいらっしゃると思う。人は他の者や世の中からの影響を受け、時にはそれに飲み込まれてしまつて、その飲み込まれた基準で自分を判断し、本当の自分を見失い、自己喪失の状態に陥つてしまふ。また、自分がひどい目にあつた原因を世の中に押しつけたりしてしまう。ただ、どんな大変な時でも、嘘と芝居で身を塗り固めたり、迷信や邪な教えに右往左往されず、自分自身を見失わざ生きていきた

本年も宜しくお願ひ申し上げます。

## 寄附

### 本堂改良工事工レベーター増設工事寄附

金五十万円 高野昇 殿  
金五十万円 匿名 殿  
金三十万円 雲頂庵 殿  
金十万円 大塚英雄 殿  
金三万円 中村石材 殿  
金一万円 大竹喜夫 殿

### 経蔵建立寄附

金十万円 大塚英雄殿

ありがとうございました

### 龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）  
● 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

### 龍源寺への交通の便（都バス）

● 東98 反96 品97 都06 田87 渋谷駅—田町駅 魚ラン坂下下車  
渋谷駅—新橋駅 古川橋下車

品川駅—新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車  
五反田駅—品川駅—六本木ヒルズ（循環）

魚ラン坂下・古川橋下車

\*大変貴重な御寄付をありがとうございました。  
た。周囲の再開発が予定される中、龍源寺  
を地域の文化資源の一つと考え、引き続き  
境内整備に力を注いでまいりたいと思いま  
す。また、坐禅会、企業研修、法話会など  
の教化活動にも力を入れていきたいと思いま  
す。未熟者ですが、今後とも宜しくお願  
い申し上げます。（信樹）

### 大般若会（お正月の祈祷法要）

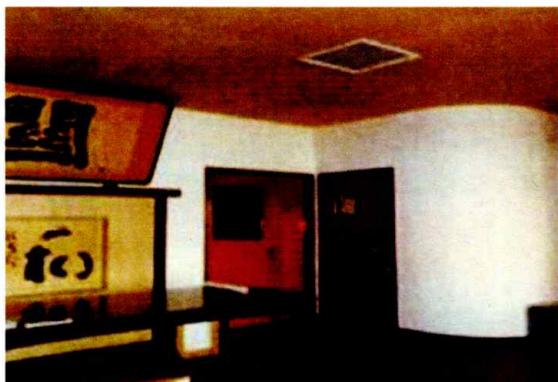
左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、一月五日（土曜日・午前十一時より）

一、読経  
一、法話

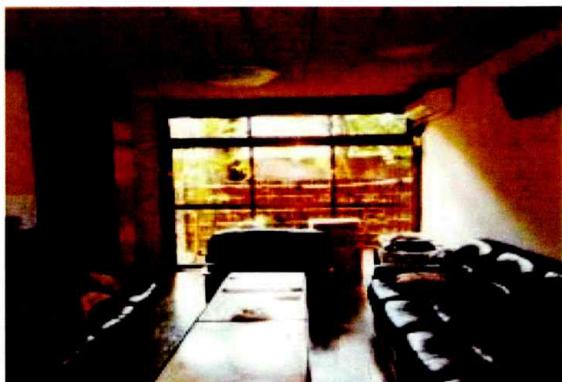
※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

# 龍源寺エレベーター増築・改修工事



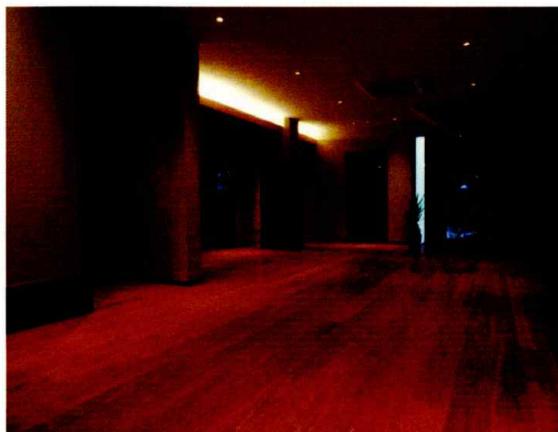
旧玄関ホール

写真提供  
株式会社 丸西



旧応接室

写真提供  
株式会社 丸西



改修後の玄関ホール



改修後の応接スペース  
(もとは居室部分でした)



改修後の玄関ホール



応接スペースからの眺め

明けましておめでとうござい

柳 緑

一タ一増設工事に関して、多  
大な御寄付をいただきました  
こと、厚く御礼申し上げます。

階段を使わず、本堂に行けますので、安  
心して御来山いただきたいと思います。  
玄関にはスロープも併設されています。

檀信徒の皆さんと、先代住職が建てた本  
堂を今後とも大切にしていきたいと思  
います。▼今年も引き続き、坐禅会、社員

研修、法話会等に力を入れていきたいと  
思います。四月十一日から二十七日頃ま  
で、九州に巡教ででかけます。恐らく、

お檀家さまの中でも、地元のお寺さんか  
ら龍源寺を紹介していただいたという方  
もいらっしゃると思います。もしかしたら、

泰道和尚や哲明和尚が巡教でお世話にな  
ったお寺さんなのかもしれません。法要  
の日程の件でご迷惑をお掛け致します。

宜しくお願ひ申し上げます。▼千葉県の  
マザー牧場に隣接する佛母寺で住職をし  
ている弟の覚樹和尚は、アスコム社より

『心配事がスッと消える禅の習慣』とい

本を出版しました。本の帯を読みますと、  
ニューヨークで話題の禅僧だそうです。日  
本とアメリカを行ったり来たりしています。

もう一人の横浜市戸塚で正福寺の住職を  
している行樹和尚は、布教師として色々  
なところでお話しをしています。彼の後

五一（東京都目黒区下目黒五・七一）

にお電話を入れていただきたいと思いま

す。丁寧なお仕事で、皆さまに大変喜ば  
れています。葬儀、家族葬、密葬など気

軽にご相談下さい。生前のご相談も受け

付けています。また、龍源寺の規則をお

守りただける方でしたら、どなたでも

使用できる合同船という合同墓地がござ

ります。墓地の継承者を気にする事がな

いため、相談にみえられる方が多いです。

▼一月五日の大般若会で読む『大般若經』

の經典は写經会の皆さまの手書きの写經  
によるものです。修行僧である平林寺の

雲水さんと若手の和尚さんの気迫のこも  
った声で、お經の力を借りて悪いものを

吹き飛ばしていきます。一月

五日午前十一時より大般若会を厳修致し  
ます。ご家族でお参りください。（信樹）